

上尾歴史散歩

242 上尾の古い地名を 38

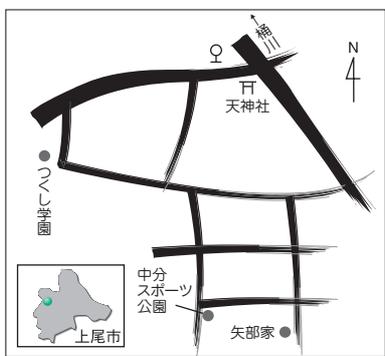
■藤波地区から中分地区へ歩く

「ぐるっとくん」を「藤波公民館」で下車し、百メートルも西下し、左折してやや南西方向に歩く。区画整理された道路であるが、道は丘陵上から溺れ谷の低地に下がることになる。三百八十メートルほど歩いて、台地の突端をまた左折して東南方向に歩く。百二十メートルほど歩いて、正面にグラウンドが見えた所で今度は右折する。溺れ谷の低地を歩いて南下すると、道は少々登り坂となる。ここで地域名は藤波一丁目から中分四丁目となる(『上尾市地形図』)。



多くの古文書が所蔵されていた旧家の土蔵

近世の上尾地域の村々は、荒川などの河川敷の肥沃な土を肥料として購入し、畑に入れている。元文二(一七三二)年の『上尾宿御書上』にも記されているので、広い範囲にわたり実施されていたとみられる。藤波・中分・小泉・井戸木地区は近接の石戸領々家村と協定し、毎年荒川の土を買い入れている。この辺りではこの堆積土を「やどろ」と呼んだりしているが、長年の土入れでどの村も大変肥沃な畑地になっている。これも先人たちの汗の結晶で豊かな耕地が造成されたことになる(『本町小川家文書』、『上尾市史第六巻』)。



戦前から畑地の多い上尾市域は、大麦とサツマイモの特産地として知られていた。特に大麦の質は高く、市場でも高値が付けられたといわれる。本来上尾地域の畑地は、ローム層の赤土で痩せた耕地である。先人たちはこの耕地に腐葉土を入れ、木灰を投下して土造りに励んだのである。大麦の大産地になったこともその先人たちのたまものである(『上尾百年史』)。

溺れ谷から中分四丁目の台地に登ることになるが、この辺りの近世の小字は「袋」である。右折して五百メートルも歩くと、工場の建物が見えてくる。工場敷地の角を左折して東上すると、屋敷森の農家群を見ることになる。この農家群の中に、旧中分村の名主の矢部家がある。この家には多くの古文書が残されているが、特に県内でも珍しく、天保期(一八三〇～四四年)の農業収支の記録が所蔵されている。数年にわたる連続記録で、しかも収量やその売上高、投入肥料まで記した資料は県内でも例がない。資料中にはサツマイモの作付けがあるものも注目され、紅花が大量に生産されているの目も引く。肥料を大量投下して、「土作り」に励んでいる様子も資料からうかがうことができる(『上尾市史第三巻』、『中分村矢部家文書』)。

(元埼玉県立博物館長・黒須茂)

わくわくクイズ

○に入る文字や数字を当ててください。

島村市長は市長施政方針の中で、ことしを新たな上尾を『○』り出す年と位置付けました。

(ヒントは3ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、5月20日(金)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は6月号のこのコーナーで。前号の答えは「ほっと」でした。ご応募ありがとうございます(応募者53人)。

市の人口・世帯
(平成23年4月1日現在)

22万7214人
男/11万3574人
女/11万3640人
※前月より118人増。

9万2529世帯

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。